

2021 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 臨床工学技士科(夜間部) | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|--|--------------|---------------------|---------------------------|-----------------|----------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 総合演習 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (4) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 3年次 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 澤田 正二 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 臨床工学技士標準テキストに沿って復習を行い、国家試験に向けて演習問題を解く。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 1. 定期試験: 70 % 4. 授業態度: 10 % 出席率 : 20 % | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| プリント配布 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 国家試験・第2種ME技術実力検定試験の過去問題の演習・復習を行う。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 国家試験対策であり、積み重ねて頑張りましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 心電図を学ぶ | 配布プリント | 臨床工学技士 標準テキストを 事前に読む | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 各種, 心電図の特徴をスライドを用いて説明する | | | |
| 第2回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 循環器疾患を知る | 臨床工学技士 標準テキス | 臨床工学技士 標準テキストを 事前に読む | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 臨床工学技士標準テキストに沿って説明する | | | |
| 第3回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 代行装置学(循環)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士 標準テキストを 事前に読む | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 回路・血液ポンプ・人工肺など人工心肺領域を学ぶ | | | |
| 第4回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 代行装置学(循環)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士 標準テキストを 事前に読む | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 酸素開離曲線を学び臨床を例に考え方を伝える | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | ESWLを学ぶ | 配布プリント | 臨床工学技士 標準テキストを 事前に読む | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 治療機器学・腎疾患の両面から説明する | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--|--------|--------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 国家試験に必要な腎疾患を知る | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 臨床工学技士の過去問を用いて問題を解く | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(代謝)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | ダイアライザ・アフレスシスについて学ぶ 臨床における取り間違いを例に考える | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(代謝)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 抗凝固から臨床での利用法を学ぶ | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸音・心音を学ぶ | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実際の臨床に必要な解剖学から聴診器も含め学ぶ | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(呼吸)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 呼吸器のモードによる違いから合併症を学ぶ | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 治療機器学にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 心疾患関連治療機器(除細動器・ペースメーカーなど)を学ぶ | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 化学関係問題の解答力を得る。 | プリント配布 | 過去問題の演習課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | pH,結晶構造の醜類、化学式に関わる演習・解説の実施 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 計測工学、生体計測関係の解答力を得る。 | プリント配布 | 過去問題の演習課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 計測工学、生体計測関係の演習・解説の実施 | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 電磁気学 電気系分野の解答力を得る。 | プリント配布 | 過去問題の演習課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 電磁気学 クーロン力・金属の性質など電気系問題の演習・解説 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 磁気力、電磁気力関係の解答力を得る。 | プリント配布 | 過去問題の演習課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 電磁気学 磁気力、電磁気力関係の演習問題・解説の実施。 | | |

2021 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 臨床工学技士科(夜間部) | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|--|--------------|-----------------|------------------------------|--------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 総合演習 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (4) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 3年次 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 澤田 正二 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 臨床工学技士標準テキストに沿って復習を行い、国家試験に向けて演習問題を解く。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 1. 定期試験: 70 % 4. 授業態度: 10 % 出席率 : 20 % | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| プリント配布 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 国家試験・第2種ME技術実力検定試験の過去問題の演習・復習を行う。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 国家試験対策であり、積み重ねて頑張りましょう。 | | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第16回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 国家試験に必要な心電図を知る | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 臨床工学技士・看護師・検査技師の過去問を用いて問題を解く | | | |
| 第17回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 国家試験に必要な循環器疾患を知る | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 臨床工学技士・検査技師の過去問を用いて問題を解く | | | |
| 第18回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(循環)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 低体温・体外循環による影響などを学ぶ | | | |
| 第19回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(循環)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | IABP・PCPSの補助循環を学ぶ | | | |
| 第20回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 腎疾患を知る | 臨床工学技士標準テキスト | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 臨床工学技士標準テキストに沿って説明する | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|----------------------------------|--------------|--------------------|
| 第21回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(代謝)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | VA・水処理について学ぶ | | |
| 第22回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(代謝)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | CAPD・腎移植について透析療法以外の選択治療を学ぶ | | |
| 第23回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(代謝)にて過去問正解率100%を目指す | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 代謝領域に必要となる濃度の計算などを理解する | | |
| 第24回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸疾患を知る | 臨床工学技士標準テキスト | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 拘束性・閉塞性から呼吸の原理につき学ぶ | | |
| 第25回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(呼吸)にて過去問正解率100%を目指す① | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | スパイロメーター・カプノメーターなど計測機器を学ぶ | | |
| 第26回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 代行装置学(呼吸)にて過去問正解率100%を目指す② | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | スパイロメーター・カプノメーターなど計測機器を学ぶ | | |
| 第27回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 治療機器学にて過去問正解率100%を目指す① | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 電気メス・内視鏡など治療機器を学ぶ | | |
| 第28回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 治療機器学にて過去問正解率100%を目指す② | 配布プリント | 臨床工学技士標準テキストを事前に読む |
| | | 各コマにおける授業予定 | 電気メス・内視鏡など治療機器を学ぶ | | |
| 第29回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 電磁波関係の解答力を得る。 | プリント配布 | 過去問題の演習課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 電磁波の基本的性質。波長分類、放射線関係の演習・解説の実施。 | | |
| 第30回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | スネルの法則やドップラーなど波動の基本性質に関わる解答力を得る。 | プリント配布 | 過去問題の演習課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | スネルの法則、レンズ、ドップラー関係の演習・解説の実施。 | | |